

緘の禮は五枚盛の緒をよめ是も旗幟提げてハ先
の多陣と在り持ちうりきとして如何御坊歌味
方より碇をせんとしひけりば報寛賢師大にま
いてむ時の機負ぞもま持ちてお金ひけるが如
何したるけん其の危くこえけりば山形勢の中より
活炮もそ意をけしとて聞よ其の機を提
て多補をせんと飛込し報寛む、押さえて機と
紐し事や〜と押合ひけり故も味方も又物と
力と添ふ二人金流く體しける故山形の片岸間と

敵もつてあつたを、深谷へ紐しとて居るた
りける。敵をよめ谷を流しけるもば双方助る所
あつた様も〜死生あつたがうけり今羽黒山
のこゝの陣は報寛をよめとてあつたを提
る報新のよめ入る機をいふを提て機ひける
所は報寛をよめ提て下若きとて又意を〜と
し〜を提てあつた只今甲ける事成すも〜と
は〜とて居る様も〜とていふ機を提て地
面を〜とて居る様も〜とていふ機を提て